

第5章

避難するときの注意

第6章

あなたに今できる事

指導のねらい

- 警戒レベルに応じてどんな行動をとらなければならないか、どんな情報が発表されるかを理解する。
- ハザードマップが使えるようになる。
- 情報収集の手段を理解し、災害発生時に正しい情報を収集できるようになる。
- 避難するときの注意点を理解し、避難時に適切な避難行動や低学年の児童や高齢者など周りの人への配慮ができるようになる。
- 避難マップ作りやマイタイムライン作り、非常時の持ち出し品チェック、避難時の家族ルール作りを通して、災害に備えることができる。
- 家族や地域の人へのインタビューを通して、自分の住んでいる地域の特徴や注意すべき点を理解し、必要な備えを考え、防災につなげることができるようになる。

学習指導要領

社会科

第4学年の内容

- (3) 自然災害から人々を守る活動について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (イ) 聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめること。

第5学年の内容

- (4) 我が国の産業と情報との関わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解する。
 - (ウ) 聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめること。
 - (5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (エ) 地図帳や各種の資料で調べ、まとめること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。

特別活動

学級活動の内容

- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
 - 現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

■授業展開例(45分)

時間(分)	学習活動	指導上の留意点	副読本該当項目
0	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習で、マイタイムライン作り、非常時の持出品チェック、避難するときの家族のルール作り、家族(または地域の人)に自分の住んでいる地域ではどんな災害が起こりやすいかを聞いて、まとめる。 ・家庭学習で、学校から自宅までの地図を描くか、貼り付けておき、避難所に印を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭学習で、マイタイムライン作り、非常時の持出品チェック、避難するときの家族のルール作り、家族(または地域の人)に自分の住んでいる地域ではどんな災害が起こりやすいかを聞いて、まとめさせておく。 ●家庭学習で、学校から自宅までの地図を描くか、貼り付けておき、避難所に印を記入する。マイタイムライン作り、非常時の持出品チェック、避難するときの家族のルール作り、家族や地域の人へのインタビューを事前にワークシートとして提示して、まとめさせておく。 ●避難マップについては、学校から自宅までの地図を家庭学習で児童に描かせておく。もしくは、地図を配布し、該当する部分を切り取って貼り付けさせておく。避難所に印をつけさせておく。 	
5	1 これまでの学習を振り返り、本日の学習課題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ●どんな災害のときに、どんなことに気をつけなければならなかったのか、と発問する。 	
5	2 副読本を読み、警戒レベルを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ●警戒レベル4になるまでは避難してなくてよいという意味ではなく、危険を感じたら、警戒レベル4になっても、避難することの重要性を理解させる。 ●警戒レベル5はすでに災害が発生しているので、もし避難所へ行けていない場合は、無理に避難所へ行くのではなく、垂直避難するなど、命を守るための最善の行動をとることを理解させる。 	●p.22「警戒レベル4で全員避難」

15	3 ハザードマップを見て、危険箇所を避難マップに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ●タブレットやパソコンを使って各市町村のハザードマップや国土交通省の「重ねるハザードマップ」の見方を説明する。児童に危険箇所を調べさせ、避難マップに記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●p.24「ハザードマップを見よう」 ●p.25「風水害が起きた時の避難マップを作ろう」
8	4 副読本を読み、避難時の注意点や情報収集の仕方を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ●注意を守らなければどのような危険があるか、意見を出し発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●p.23「避難をするときの注意点」 ●p.24「垂直避難について」
10	5 家庭学習で取り組んできた、マイタイムライン、非常時の持出品チェック、避難するときの家族ルール、家族や地域の人へのインタビューについて、グループで説明し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ●全てを説明し合うのが難しい場合、グループごとにテーマを振り当て、説明し合った後にどんな意見が出たか、発表させる。 ●マイタイムラインについては、どうしてこの順番にしたのか、どうしてその靴などを選択したのかについて、説明させる。 ●避難するときの家族ルールについては、家族とどう話し合いをして、このルールに決めたかについて説明させる。 ●非常時の持出品については、チェックをしてみて気づいたことを説明させる。また、チェックするだけでなく、実際に準備をしていつでも持ち出せるように伝える。 ●家族や地域の人へのインタビューについては、聞いた内容だけでなく、インタビューしてみて感じたことなども説明させる。 ●聞いている児童は参考になりそうなことを探しながら聞くように指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●p.26「マイタイムラインを作ろう」 ●p.27「避難するときどうするのか？」 ●p.28「非常時の持出品をチェックしよう」 ●p.28「あなたはどう思いますか？」
2	5 本学習及び全体を振り返る。学んだことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ●自分たちが住む地域の過去に災害が起こった場所に行き、どのようなことが起こって、どのような対策が施されたのかを確認するように促す。 	

第5章 避難するときの注意

警戒レベル4で全員避難

どのくらい危険な災害で、そのときにどんな避難行動をとればいいのかを段階の警戒レベルであらわしています。住んでいるところに、警戒レベルが出されたら注意が必要です。

警戒レベル	避難行動等	避難情報等	防災気象情報
警戒レベル5 災害発生中	すでに災害が発生している状態です。ある程度は自らの行動をとりましょう。	災害発生情報等 (土砂災害警戒区域等における土砂災害防止法等に基づく情報)	大雨特別警報 土砂災害特別警戒情報
警戒レベル4 全員避難	すでに避難所へ避難している状態です。避難所までの移動が困難な場合は、近くの安全な場所や、家の近くの安全な場所に避難しましょう。	避難所指定情報等 (土砂災害警戒区域等における土砂災害防止法等に基づく情報)	土砂災害警戒情報 土砂災害特別警戒情報
警戒レベル3 高齢者などは避難	避難に困難な高齢者(高齢者・小さなお子様)は、ほかの安全な場所へ避難しましょう。その他の人は、避難の準備をしましょう。	避難準備・高齢者等避難開始情報等 (土砂災害警戒区域等における土砂災害防止法等に基づく情報)	大雨警報 土砂災害警戒情報 土砂災害特別警戒情報
警戒レベル2	ハザードマップを見て、どのように避難するかを確認しましょう。	注意報	大雨注意報 洪水注意報
警戒レベル1	数日分の食べ物や水や避難グッズを準備し、家族に伝えましょう。	早期注意報	早期注意報

22

※詳細は28ページで解説されています。

避難をするときの注意点

避難をするときにけがをしたり、命を落としたりしないように注意しましょう。

● 住んでいる地域に、警戒レベル3や警戒レベル4が出たときには、すぐに避難しましょう。また、雨が強いうちに避難しましょう。



● 動きやすい服装で避難しましょう。さらさらの服装や靴に防水リュックなどに入れておきましょう。いざというときに必要になるため、小まめにチェックしておきましょう。



● なるべく大人と一緒に、はなれないようにしながら避難しましょう。



● 車や自転車を使わずに避難しましょう。



● 川やため池、海岸などには近づかないようにしましょう。また、水は低い階へいきおいよく流れこむので注意しましょう。



● まわりにいる一人であらしの叫びより高齢者の子どもの声をかけながら避難しましょう。



● 水がひざ以上の高さのときの避難は危険です。無理をせずに安全な場所へ避難を待ちましょう。高ければ高ければ水がひざより低くても危険です。



● 夜に避難するのは危険なので、避難場所などで夜の安全を待ちましょう。



23

ハザードマップを見てみよう

ハザードマップは、災害が起きる危険な場所や避難所などが記された地図です。土砂災害、洪水、津波など、それぞれの災害がどの場所でおきる可能性があるのかという情報を知ることができます。

ハザードマップを見ながら、家族ともしものときにどう避難をするか話し合ってみましょう。

ハザードマップの見方

ハザードマップは、災害の起こりやすい場所がわかりやすいように色分けされています。避難するときには危険な場所を避けるように、学校や自宅から避難場所までの道を確認しておきましょう。



垂直避難について

安全な場所へ避難する時間がない場合、建物の上の階へ避難することを垂直避難といいます。垂直避難をする場合は、建物のより高い場所へ移動しましょう。土砂災害の危険がある場合は、より高い階の山から屋上へ避難しましょう。

水害の場合



土砂災害の場合



24

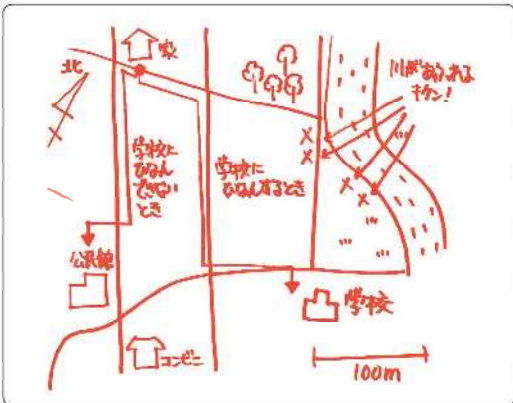
第6章

あなたに今できる事

風水害が起きたときの避難マップを作ろう

学校からあなたの家までの帰り道を思いやり、地図を貼ったりした後に、避難場所や危険な場所を思い出してみよう。それから危険な場所があればXをして、何が危険か書きましょう。

完成した避難場所までの道について家族と話し合ったり、実際に歩いてみたりして、確認してみましょう。



自分の住んでいる地域は、どんな災害が起こりやすいか、どんなことに気をつけるべきか、地域の人が話し合ったり、家族と一緒に確認しておきましょう。また、住んでいる地域で危険なポイントを選んで、思ったことを書いてみましょう。

● どんな災害が起こりやすいか?
 ● 洪水
 ● どうして?
 ● 川がはんらんする
 ● 気をつけること
 ● 雨の多い日はなるべく川の近くを歩かない



※このページはコピーをしておこう。

25

マイタイムラインを作ろう

台風が近づいてきたときにどう備えるのかを考えて書いておく防災のスケジュール表のようなものをマイタイムラインといいます。
台風が発生してから「川の水があふれる」まで、どんな行動をするのか考えながら書いてみましょう。

「台風が発生」してから「川の水があふれる」まで

3日前
①台風が発生
① 台風の情報調べ
② 安全な場所へ移動を開始する
③ 避難しやすい服装に着替える

1日前
②台風が近づいて高や風がだんだん強くなる
④ 避難するときに持っていくものを準備する
⑤ 避難するときに持っていくものを準備する

半日前
③雨が来始めて、川の水がだんだん増える
⑥ 住んでいる場所の上流の雨の量を調べ始める
⑦ 川の水位を調べ始める

7時間前
④強い雨が、川の水がどんどん増え、河川氾濫にも水が溢れる
⑧ 避難しやすい服装に着替える

5〜3時間前
⑤川の水がいっぱいであふれそう
⑨ 安全な場所へ移動を開始する

0時間
⑥川の水があふれた
避難完了

※このページはコピーをして使おう。

避難するときどうするの？

もし、家族といっしょにいないときに避難することになっても、家族どこに避難するかなど決めておくとお互いに見つけやすくなります。避難するときのルールを家族で話し合っておきましょう。

集中豪雨のとき

いつ
行動のタイミング
① 避難のタイミング
② 避難のタイミング
③ 避難のタイミング

どうやって
誰とどうやって避難する？
① 避難のタイミング
② 避難のタイミング
③ 避難のタイミング

家族との連絡方法
家族との連絡方法
① 避難のタイミング
② 避難のタイミング
③ 避難のタイミング

どこへ
避難場所
① 避難のタイミング
② 避難のタイミング
③ 避難のタイミング

※このページはコピーをして使おう。

台風のとき

いつ
行動のタイミング
① 避難のタイミング
② 避難のタイミング
③ 避難のタイミング

どうやって
誰とどうやって避難する？
① 避難のタイミング
② 避難のタイミング
③ 避難のタイミング

家族との連絡方法
家族との連絡方法
① 避難のタイミング
② 避難のタイミング
③ 避難のタイミング

どこへ
避難場所
① 避難のタイミング
② 避難のタイミング
③ 避難のタイミング

※このページはコピーをして使おう。

非常時の持ち出品をチェックしよう

あなたの家では非常時の持ち出品としてどのようなものを用意していますか？家族の人に聞いて、「家にあるもの」には○をつけて、備え表に書き込んでみましょう。

家にあるもの	冊	記入例
マスク		1箱
ガーゼ	1箱	
トイレットペーパー	10本	6本
きずぐすり	2個	
けいぞうラジオ		
軍手	1組	3組
かいち電灯	2個	1個
ヘルメット		
ばんそうこう	1箱	1箱
タオル	4本	5本
ねん薄テープ		
ウェットティッシュ	1箱	
食品用ラップ	1箱	2箱
雨具・防災袋	3組	4組
そのまふ食べられるもの	5日分	3日分
飲料水	6本	2本
下着	10枚	3枚

※このページはコピーをして使おう。

あなたはどう思いますか？

この本を読んでみて、あなたが防災について考えたことを書いてみましょう。

この本をきっかけに、防災対策がされた場所や、過去に災害が起きた場所へ行って見て、防災について考えてみましょう。

氏名 (姓 名)

住所 (市 区 町 丁目 番 号)

※このページはコピーをして使おう。

補足説明

㊤傘は雨具として使用しない

避難時に傘を使用しないのは、以下のような理由がある。

- 転倒したときにすぐ手が出せるなど、両手をあけて安全を確保するため。
- 台風の場合、傘が風で飛ばされ、被害が出るおそれがあるため。

しかし、傘を閉じて杖代わりに使うという方法もある。避難時、足元が水につかって滑りやすいときなどは、傘を杖として使うのも1つの方法である。

㊦移動中の車中死

令和元年10月に東日本に甚大な被害をもたらした、台風第19号と第21号の影響で亡くなった人の約3割が車で移動中に浸水してしまったことによる車中死だといわれている。水位が高くなって歩いての避難が難しい場合は、家やマンションの高い階に上がる垂直避難をしましょう。

㉔ 浸水の深さについて

「水がひざ以上の高さの時」と説明してあるが、水の深さは場所によって異なることを考慮しなければならない。また、低い深さでも水の勢いなどで歩行が困難になる。

「水がひざより低ければ逃げなくてもいい」と児童が思わないように、よく考えて行動することを指導する必要がある。

㉕ 避難所に行くことだけが避難ではない

避難とは「難を避ける(なんをさける)」ということである。

近年の災害では、避難所に行く途中で命を落とすという例も報告されている。

災害が起こりそうなときは、家の近くのショッピングモールに行く、周囲の様子がわかりにくい夜は家から出ない、マンションに住んでいる人は家に留まる・高い階に行く等、避難所に行くことだけが避難ではないと理解することが必要である。

㉖ ハザードマップ

ハザードマップは各市町村のホームページに掲載されている。(「〇〇〇(市町村名)ハザードマップ」で検索) また、「重ねるハザードマップ」では、洪水、土砂災害、津波、道路防災情報を調べることができる。

※29ページ㉒のURLをご参照ください。

㉗ 校外学習をしてみましょう

「家族や地域の人に聞いてみよう」については、別途時間を設けて、地域の人にインタビューする校外学習にしてもよい。話を聞くだけでなく、実際に被災した場所などに行くと、地域の特徴などがより深く理解できる。

㉘ インタビューする際の質問項目例

- 「過去に〇〇〇(地域名)にどんな風水害が起きましたか？」
- 「どんな被害が出ましたか？」(どのくらいの大雨が降りましたか？どのくらいの高さまで水に浸かりましたか？土砂災害はありましたか？台風で停電しましたか？

電車が止まりましたか？など)

- 「どんなことに困りましたか？」
- 「〇〇〇(地域名)だからこそ、災害のときに気をつけなければならないと思うことは何ですか？」

㉙ 川の水位の調べ方

川の水位や様子については、国土交通省の川の防災情報や福岡県防災ホームページで調べることができる。図式や河川カメラの映像を見ることができる。

※29ページ㉓㉔のURLをご参照ください。

㉚ 災害用伝言ダイヤル171

災害用伝言ダイヤル171は、体験利用することができる。授業内で実際に体験してみるのもよいでしょう。

【体験利用日】

- 毎月1日、15日
- 1月1日～3日
- 防災週間(8月30日9時～9月5日17時)
- 防災とボランティア週間(1月15日9時～21日17時)

【条件】

- 伝言録音時間:30秒
- 伝言保存期間:体験利用期間終了まで
- 伝言蓄積数:20伝言

※29ページ㉕のURLをご参照ください。

㉛ 公衆電話の使い方の動画

災害用伝言ダイヤル171は、公衆電話からも利用することができる。しかし、2017年にNTT東日本が行った調査では、公衆電話を使った経験のない小学生が約85%に上ることがわかった。NTT東日本のホームページで公衆電話の使い方をイラストや動画でわかりやすく紹介している。

※29ページ㉖のURLをご参照ください。

㉜ 他に必要なものは欄外に記入

イラストはあくまで一例である。人によってそれぞれ必要なものは異なりますので、必要に応じて他に必要なものを考えさせましょう。

板書例

めあて

- ・避難するときの注意することを学ぼう。
- ・災害に備える準備をしよう。

警戒レベル4で全員避難！
危険を感じたら、警戒レベル4になっていなくても避難！

<発表を聞いて気づいたこと>

- ・川の水位を調べると、避難をしなければならないかがわかる。
- ・荷物がたくさん入るように大きなバッグと書いたけれど、リュックサックの方が両手が使えるのでいいと思った。
- ・冬は毛布やカイロも持って行かないと寒い。
- ・災害用伝言板で連絡をとると決められたけれど、使い方がわからないから、家族と一度使ってみる。
- ・大雨がふると、洪水や土砂災害が多い地域だとわかった。
- ・橋が流されて困ったという話を聞いて、早く避難をしないといけないと思った。

<まとめ>

- ・避難所に行くだけが避難ではない。なにが危険かを判断して、避難する。

裏表紙

A これだけは押さえておきたい風水害でよく使われる用語

メディアなどでよく使われる気象用語の中で、児童が情報収集する際に最低限知っていてほしい用語を集めている。

- 雨が降る前によく使われる用語
「前線の影響で…」 「低気圧が近づきます」 「気圧の谷の影響で…」 「河川の増水、氾濫にご注意ください」 「大気の状態が不安定」
- 台風が近づくときによく使われる用語
「日本の南の海上に熱帯低気圧が発生しました」 「上陸するおそれがあるでしょう」
- 風水害発生時や発生後によく使われる用語
「二次災害のおそれがあります」

※ここでは、用語の意味を説明するのではなく、上記のような用語を見聞きした際に、災害に備える準備をしなければならない、ということを見事に理解してもらいましょう。用語の詳しい意味がわかると、より理解度が増すので、調べさせてもよいでしょう。